

小松島市立市就学前教育・保育施設再編計画策定部会（第1回） 議事録

日時 令和5年8月2日（水）

時間 午後1時30分から午後3時30分まで

場所 本庁4階 大会議室

**事務局** （資料確認、部会設置の経緯説明）

**市長** （挨拶）

**事務局** （委員紹介、事務局照会、正副会長選出）

**会長** （挨拶）

**市長** （諮問書を読み上げ、会長に手渡す。）

**会長** 本部会の位置付け及び役割の説明。

昨年度、国より子どもの幸福度達成に関する指標が示された。幸福のあり方は各家庭、子どもにより異なり、また、まちづくりの指標も地域により異なる。

今年度、「デジタル田園都市国家構想」が新たに策定され、国の人口1億人維持が難しくなっている。こうした背景の中、一時的な人口減少の歯止め、一人一人が豊かな情操、高い能力をもった社会をつくるための保育が大切である。

小松島市の子育ての基本的な考え方として、1つ目に地域・地区の学校がコミュニティーの中心にある。保育所や幼稚園、小学校に人が集まり信頼関係を築き、そこで地域の人が結びつきを高める。2つ目に小学校区がある。保育所や幼稚園も同様に、地元に近い保育施設を選び、通所・通園させる。これは珍しいことだ。

地域の活性化、人々を束ねていくには、人々同士が信頼、地域の信頼している状態、ソーシャルキャピタルが基本となる。小松島市にこのソーシャルキャピタルが多く、これが地域を作づくりの基本に残っている。

人口が少ない中で、市全体で人が互いに信頼しているのが小松島市の良いところだ。

これからの保育政策、幼稚園の場所、施設規模、施設の質、そして今後の課題。小松島市の未来を担ってってもらえる人材を育てられる、小松島市の良さを大切にしたい計画にしたいと思う。

**事務局** （資料1-3から1-5までの説明、市の少子化政策、運営について）

**会長** 市の既存計画にて将来に向けた方針が示されている。

**A委員** 幼稚園、保育所、認定こども園の違いと1号、2号、3号の違いに関する質問。

**B委員** 今は幼保一元化の時代。現場は教育と保育の両方を行っている。例えば幼稚園と小学校のつながり「架け橋」意識があり、小学校の近くに幼稚園や認定こども園、保育所があれば、常に連携が取れていこう。これからは統合を念頭に考えていかなければならない。多くの市町村は新しい保育に携わる人の採用に際し、幼稚園教諭免許と保育士免許の両方を持つ人を採用する。その中で、現場では子の幸せのために工夫を重ね頑張っている。

**会長** 幼稚園から中学校まで途切れなく見えることは小松島市の一つの文化であり、これからは物理的にも交流できるような制度を作っていくことが大事だろう。

1つ、質問。中学校は2つ、で良いか？

**事務局** 平成22年度に小中学校、幼稚園の再編計画において、ある一定の計画を立て、中学校は2校、小学校は5校、幼稚園は5園とした。その後、少子化が進み、小学校については新たな小学校再編計画を策定した。現在、中学校の施設整備は終わり、計画当初の2校で変わらない。

**会長** 市町村合併が推し進められていた当時、規正人口が示され、その規模は45万人であった。なぜなら、45万人より多いときめ細やかな行政サービスが行き届かず、少ないと負担が生じる。経済学的な実数だが、この数字は東京近郊を想定し設計したものであったのことが後々分かった。行政による施策は地域の事情・状況を十分に考えて進めていかなければならない。

幼稚園、認定こども園、保育所の一人の先生が、子どもたちの手をつなぐことができる人数が、子供に目が行き届く適正な数字だと思う。一方でその集団の中には、いろんな個性を持った子供がいることも知って欲しい。

では、1点目、どのくらい的人数で1クラス、保育所の担任の先生が設定したらいいのか。国は基準を持っているが、本当にこれでいいのか。これを考えていかないといけない。運営する上で必要とされる幼稚園、保育所、認定こども園、各施設全体の人数が出てくるが、施設を利用する側に立ち、この人数で大丈夫なのかな、そういう視点で見たい。実際、その規模が適正かを議論したいので、ご意見をください。

2点目、家と施設の位置関係の実態を伺いたい。毎日、児童が家から通う距離、適正な距離であるか。そして職員の配置計画。保護者の立場、児童の立場での通園、通学、そして緊急時のお迎え。病児のお迎えが難しい場合の体制。細かい工夫をしていく上での基礎と

なる再編計画の素案を伺いたい。

**事務局** （資料1－7の説明）

**会長** 資料1－7に記載のラインナップを盛り込み、再編計画についての委員の意見を伺い、諮問会議を進め、市長の方針に応えたい。

デジタルの使用過多は東京一極化が進みすぎるので、これに対応できる教育、子どもたちが多様な価値観を持てることを大切にしたい。いろんな子どもがいて、一人一人の能力を高めていかないと人口が少ない中での地域が維持できなくなる。そんな状況が迫っている。次回以降、議論していきたい。

資料1－3の出生数の頁について。2027年度の172人の子どもを預かる行政計画を作ることで5年後の人口予測が出来上がっている。小松島市の地域の事情にマッチした計画を考えていくことが第一だと思う。

資料1－7のエビデンスを示さないといけない。環境、取り組み、課題、具体的な年次計画。これに委員会の思いを込めた形で、今後4年掛けて計画を立てていきたい。

**事務局** （今後の部会開催予定について説明）

第2回（10月25日）、第3回会議（1月末頃）、市民からのパブリックコメント（2月）を挟み、これらの意見を踏まえ第4回会議（3月初旬予定）を開催する。審議終了後、市長からの諮問を行う運びとなる。

また、各会議で委員から頂戴する意見、庁内横断的に現存するあり方検討会、ワーキンググループ等を開催し、整理した上で次の会に反映する。

以上